

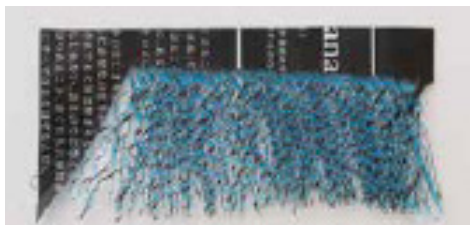
「人間の才能 生み出すことと生きること」展

2022. 1.22 sat ~ 3.27 sun

滋賀県立美術館 企画展

Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

press release Jan 2022



展覧会名：人間の才能 生み出すことと生きること

会期：2022年1月22日（土）～3月27日（日）

会場：滋賀県立美術館 展示室3

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）

企画：保坂健二郎 / 滋賀県立美術館 ディレクター（館長）

令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
滋賀県 文化芸術 × 共生社会フェスティバル事業

左上：上土橋勇樹《タイトル不明》2020年、やまなみ工房

左中：小笹逸男《集う猫》1980-1984年頃、みずのき美術館

左下：藤岡祐機《無題》2006-2009年頃、滋賀県立美術館

中：澤田真一《無題》2009年、滋賀県立美術館

右上：富山健二《無題》制作年不詳、作家蔵

右中：アルトゥル・ジミェフスキ《Blindly》2010年

Courtesy the artist, Galerie Peter Kilchmann, Zurich, and Foksal Gallery Foundation, Warsaw

右下：井村ももか《赤い玉》2013年、やまなみ工房

どうしてこんなに 心が揺さぶられるのだろう 人間に潜む 驚くべき創造の力

滋賀県立美術館では2022年1月22日（日）から『人間の才能 生みだすことと生きること』を開催いたします。

2021年6月にリニューアルオープンした当館の3本めとなる企画展です。当館がコレクションする「日本美術院の作家を中心とした近代日本画」「郷土滋賀県ゆかりの作品」「戦後アメリカと日本を中心とした現代美術」「アール・ブリュット」という4つの分野のうち、「アール・ブリュット」にフォーカスしました。キュレーションは、当館の館長（ディレクター）である保坂健二郎が担当いたします。

本展では、時代の流れにとらわれず、つくりたいという真摯な欲求に基づき、独自の方法論で生み出された作品を紹介いたします。「生みだすこと」と「生きること」が一体となっているような人たちの作品の中には、アール・ブリュットと呼ばれるものもありますが、そうでないものもあります。本展は、アール・ブリュットを相対的に捉えられる展示構成とすることで、アール・ブリュットという概念は今後必要か、そもそもアートとは何か、そして人間にとって重要な才能であるつくるとは何かといった問いを、皆さんとともに考える場にしたいと考えています。

出品作家 | 井村ももか、鶴飼結一朗、岡崎莉望、小笹逸男、上土橋勇樹、喜舎場盛也、古久保憲満、小松和子、澤井玲衣子、澤田真一、アルトゥル・ジミエフスキ、富山健二、中原浩大、福村惣太夫、藤岡祐機、山崎孝、吉川敏明（五十音順）

chapter1 起	アール・ブリュットとは何か？ 歴史を遡り思いを巡らせる
------------	--------------------------------



《コム・デ・ギャルソン 2014年DM》

アール・ブリュット（art brut）とは、フランスの芸術家であり、アール・ブリュットの作品のコレクターでもあったジャン・デュビュッフェが提唱し広めた言葉。ブリュットとはフランス語で「生（なま）の」という意味を表します。展覧会では、まず、アール・ブリュットという言葉の定義を紹介した上で、それと「アウトサイダー・アート」という英語の言葉はどう違うのか（あるいはどう同じなのか）を確認します。また、ファッションブランドのCOMME des GARÇONSが2014年のDMで特集するクリエイターとしてイギリスのアール・ブリュット専門誌『RAW VISION』を選んだ事例も紹介。美術史の枠に収まらないアール・ブリュットの作品が、どのように認知されてきたのかという歴史を振り返ります。

chapter2 承	圧倒的な作品の力 生みだすことは生きること
------------	--------------------------



鶴飼結一朗《妖怪》2021年、やまなみ工房

©Yuichiro Ukai / Atelier Yamanami Courtesy Yukiko Koide Presents

国内外で注目を集めている日本のアール・ブリュットの作家をご紹介します。ハサミで紙を櫛状に細かく切つてゆくことでふわふわとした繊細な立体物を生み出す藤岡祐機。独自のカリグラフィと、架空の映画の絵コンテのようなコマ割りの絵を描き出す上土橋勇樹。ユーモラスな表情を浮かべる不思議な粘土の生き物のようなオブジェをつくる澤田真一。古久保憲満はテレビのニュースやインターネットで情報を集め、大きな画用紙にどこにもない空想の都市を緻密に描き出します。大型の作品としては、鶴飼結一朗の作品があります。恐竜の骨や骸骨、動物たちや様々なキャラクターがみっちり描かれた画面は、妖怪たちがを列をなして練り歩く百鬼夜行の現代版のよう。幅82.5cmの画用紙に描かれた作品は、右から左に向けてつながるように描かれていて、今回は14メートルに及ぶ長大な絵巻として展示します。その他、井村ももか、岡崎莉望、喜舎場盛也、富山健二等9名の作家の作品を展示。作家のスタイルには様々な特徴がありますが、彼らは誰に頼まれたわけでもなく、ものをつくり続けているという点で一致しています。「生みだす」と「生きる」ことが一体となっているのです。作品からは、人が本来持っている圧倒的な創造力（人間の才能）を感じていただけることでしょう。



アール・ブリュットという概念とその難しさを確認するパート、アール・ブリュットならではの圧倒的な作品のパートに続いて、ここでは、アール・ブリュットを相対化するような作家やプロジェクトを紹介します。眼の見えない人に絵を描いてもらう「Blindly」という短編映画を制作したポーランドのアルトゥル・ジミェフスキ、京都の亀岡にある知的障害者の入所施設「みずのき」の絵画教室での実践がわかる作品と資料などを紹介します。アール・ブリュットは芸術的文化によって傷つけられていない（美術の専門的な教育を受けていない）人による「生（なま）の」の芸術だと言われていますが、これらの作品はそうした意味でアール・ブリュットの枠には収まりません。アール・ブリュットとは一体何なのか？ を改めて考えると同時に、人はなぜものをつくるのかという人間の創造の根源に迫ります。

アルトゥル・ジミェフスキ《Blindly》2010年

Courtesy the artist, Galerie Peter Kilchmann, Zurich, and Foksal Gallery Foundation, Warsaw

展覧会全体を通して、アール・ブリュットとは何かという理解が深まるどころか、じゃあいったい何なんだと「？」が頭に浮かぶ方もいらっしゃるかもしれません。そうです。この展覧会は、アール・ブリュットの定義を再確認するために開催されるものではありません。アートのどのカテゴリに当てはまるかどうかではなく、その根源にある人間の才能のひとつである「生みだすこと」について皆さんと一緒に考える場として美術館が機能できればと考えています。そこで最後のこのパートでは、皆さんの「声」を書き込めるミラー状の壁を用意する予定です。

いま、「つくること（Making）」に注目が集まっています。

人類学者のティム・インゴルドは、人間にとって「つくること」というのは、最初に想像していた形にあわせて作りあげる行為などではなく、自分が手にしている材料と対話をしながら、なにかを育てていくかのようにする行為だと言っています。そんな、人間が持っている才能のひとつである「つくること」の本質を再確認するべく、本展では、育てるようにつくること、つまり「生みだすこと」が、「生きること」と一体になっているような人たちの作品を紹介します。

たとえば藤岡祐機は、幼少期から切り絵をつくっているうちに、紙に鋏で櫛の歯状に切れ込みを入れると小さくも美しいオブジェが生まれることに気づきました。澤井玲衣子は、かつて自分が訪れた場所や時間の記憶をもとに、たおやかなリズムの感じられるイメージを生みだします。彼らのほとんどは、プロのアーティストではなく、また、なんらかの障害を持っています。誰かに評価されるなど望まず、日々の生活の中で独自の方法論を編み出しながらかつていく彼らの作品からは、「生みだすことと生きること」を接続させていくことの大切さを深く感じ取れるはずで

展覧会概要

展覧会名：人間の才能 生みだすことと生きること

会期 | 2022年1月22日(土)～3月27日(日)

開館時間 | 9:30-17:00 (入館は16:30まで)

会場 | 滋賀県立美術館 展示室3

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1 tel 077-543-2111 fax 077-543-2170

休館日 | 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)

観覧料 | 一般1,300円(1,100円)、高・大生900円(700円) 小・中生700円(500円) ※()内は20名以上の団体料金

主催 | 滋賀県立美術館 後援 | エフエム京都

企画 | 保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター/館長)

<https://www.shigamuseum.jp>

関連イベント

ワークショップ

「たいけんびじゅつかん with やまなみ工房」

2022年3月12日(土) 会場 | やまなみ工房

フォーラム

「文化芸術×共生社会フェスティバル クロージングイベント」

2022年2月5日(土) 会場 | 滋賀県立美術館 木のホール

登壇者：上田假奈代(NPO 法人こえとことばとこころの部屋/ココルーム代表理事)、森司(アーツカウンシル東京 事業推進室事業調整課長)、保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター・館長)

主催：滋賀県文化芸術振興課



滋賀県立美術館について

滋賀県立美術館は、大津市の南部、京都駅から電車とバスで30分ほどの緑豊かなびわこ文化公園の中にあります。1984年に滋賀県立近代美術館として開館。収蔵点数は2021年3月末現在で1808件と比較的小規模ではありますが、日本画家の小倉遊亀や染織家の志村ふくみのコレクションは国内随一を誇っています。また、マーク・ロスコやロバート・ラウシェンバーグなど、いわゆる戦後アメリカ美術を代表する作家の良作を収蔵し、2016年からはアール・ブリュットの作品収集をスタートしました。

2021年4月に館の名前から「近代」を外し、6月にリニューアルオープンし、ディレクターに保坂健二郎が就任。「かわる、かかわる」をコンセプトに、Creation(創造)、Ask(問いかけ)、Local(地域)、Learning(学び)という4つ(CALL)を軸とした活動を、滋賀から発信していきます。



photo: Yosuke Ohtake

IG [shigamuseum](https://www.shigamuseum.jp)

ウェブサイト <https://www.shigamuseum.jp>

text: Keiko Kamijo

【PRESS CONTACT】

本リリースに関するご質問、取材や掲載等のご希望は下記までお問い合わせ下さい。

竹形尚子(デイリープレス) t. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org



■注意事項

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連のガイドラインも踏まえ、必要な対策を講じてまいります。それに伴い、急な御案内の変更などが生じてくる可能性があります。詳細は、当館ホームページ (<https://www.shigamuseum.jp/>) を御確認ください。

■プレス説明会

(1)開催日時

令和4年(2022年)1月22日(土) 9:00～受付開始

(2)会場

滋賀県立美術館(大津市瀬田南大萱町1740-1)

(3)タイムスケジュール

9:00～ プレス受付開始

9:10～ 9:40 内覧会

9:45～10:30 説明会(木のホール)

・保坂ディレクター(本展企画者)によるご挨拶・展覧会内容紹介

※出展作家も複数名出席予定。作家紹介の時間もあります。

・質疑応答

10:30～ 自由取材

(4)参加申込み

参加を希望される方は、P6の返信表に必要事項を御記入の上、1月21日(金)正午までに、メールまたはファックスにてお知らせくださいますようお願いいたします。

お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場(無料)を御利用ください。大型撮影機材等の持込みのために、美術館敷地内への駐車を希望される場合は、その旨を通信欄に必ず御記入いただきますようお願いいたします。

(5)注意事項

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、プレス説明会の内容変更や開催中止となる場合があります。中止の場合は、参加申込みの際にいただいた御連絡先にお知らせいたします。



プレス説明会参加返信表

申込期限:1/21(金)正午

滋賀県立美術館行き

Fax : 077-543-2170

Email : museum@pref.shiga.lg.jp

< 必要事項 >

- 1) 貴社名 :
- 2) 御所属名 :
- 3) 御芳名 :

※参加される方すべての御芳名を記入してください。

- 4) 参加人数 :
- 5) 御住所 :
- 6) T E L :
- 7) E-mail :
- 8) 通信欄 :